



諏訪大社は、長野県中央の諏訪湖をはさんで南に上社（本宮・前宮）、北に下社（春宮・秋宮）に分かれ二社四宮が鎮座しています。

全国各地にある諏訪神社の総本社であり、日本最古の神社のひとつとされています。歴史は大変古く、「古事記」にその起源が、「日本書紀」には持統天皇が勅使を派遣した、と記されています。祀られている「お諏訪さま」「諏訪明神」は、古くは風の神、水の神、狩猟・農耕の神、武士の時代には軍神、現在では産業や交通安全、縁結びの神として信仰されています。

七年に一度、寅と申の年に行われる御柱祭で知られています。

◆**上社（かみしゃ）**  
**本宮（ほんみや）（諏訪市）**  
 片拝殿が幣拝殿の左右に並ぶ独特の「諏訪造り」で、建造物も四社中で最も多くを残しています。現在の建物は江戸時代に再建されたもので徳川家康の寄進による四脚門など、国の重要文化財に指



上社本宮

◆**前宮（まえみや）（茅野市）**  
 諏訪信仰発祥の地と伝えられており、その昔は諏訪大社の祭祀を司る大祝の居館をはじめ、多くの建物によって構成されていました。本殿を取り囲むように建つ四本の御柱がよく見えます。



上社前宮御柱

◆**下社（しもしゃ）**  
**秋宮（あきみや）（下諏訪町）**  
 樹齢八百年の杉の巨木や、御柱の年に新調される神楽殿の大注連縄などが荘厳な雰囲気醸し出しています。春宮と共に

に国の重要文化財に指定される幣拝殿は二重楼門造りと呼ばれています。



（上）下社秋宮神楽殿



（左）下社春宮幣拝殿

◆**春宮（はるみや）（下諏訪町）**  
 下馬橋と呼ばれる木造の太鼓橋を眺めながら直進すると、境内に辿り着きます。社殿の奥にそびえる杉の老木がご神木です。正面に神楽殿、その奥に幣拝殿と片拝殿、更に奥には宝殿があります。

◆**御柱祭（おんぼしらまつり）**  
 「天下の大祭」として全国に知られている諏訪大社最大の神事です。正式名称は「式年造営御柱大祭」といい、宝殿の立て替え、また社殿の四隅に「御柱」と呼ばれるモミの巨木を曳建てる神事で七年に一度、寅と申の年に行われます。上社、下社それぞれに直径約一丈、長さ約一七丈、重さ一〇ト以上にもなる御柱を山から伐り出し、木遣りに合わせて人力のみで曳き、各お宮の四隅に建てます。

四月の「山出し」と五月の「里曳き」があり、山出しでは、巨木の御柱が次々と坂を下る「木落し」や、上社では冷たい水が流れる川を曳き渡る「川越し」があり、その豪壮な情景は他に類を見ません。里曳きでは、曳行の合間に長持ち、騎馬行列など時代絵巻が繰り広げられます。



御柱が下る木落し坂

また、諏訪大社の御柱祭が終わると、諏訪地方の各地区にある小宮の御柱祭が行われ、御柱年の諏訪地方は一年を通じて御柱一色となります。

- 次回は平成二十八年（申年）
- アクセス
- 上社本宮 JR中央本線 上諏訪駅下車 茅野駅下車
  - 上社前宮 JR中央本線 茅野駅下車
  - 下社春宮 JR中央本線 下諏訪駅下車
  - 下社秋宮 JR中央本線 下諏訪駅下車